

平成 28 年度 千早赤阪村立学校園 評価報告書

学校園名（千早小吹台小学校）

校園長名（ 當麻 裕彦 ）

1. 教育目標

「豊かな心」・「確かな学力」・「健康な身体」の育成

～楽しい学校・明るい学校・開かれた学校～

～人の気持ちがわかる子・すすんで学ぶ子・元気でたくましい子～

～人権意識を大切にする教師・授業を工夫改善する教師

チームを意識し緊密に連携協力する教師集団～

2. 経営方針

「やさしさと笑顔いっぱいの学校」づくり

■「コミュニケーション能力」の育成

自分の気持ちや考えを伝えられる子・伝え合える集団を育てる。

■生きる力の育成

自ら課題を見つけ、自ら学び考え、行動し、よりよく問題解決のできる子を育てる。

■開かれた学校づくり

わがふるさと（千早赤阪村）を誇りに思い、地域の人や地域の伝統に支えられた学校づくり。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>○<u>学力向上の取組みの充実</u> 好奇心・探究心・思考力・判断力を重視した授業づくり。</p> <p>○<u>言語活動の充実・読書活動の推進</u> 言語活動・音楽教育の充実。委員会・ボランティア支援を生かした読書指導。</p> <p>○<u>英語教育の充実及び国際理解教育の推進</u> Let's enjoy communication! 思いや意思の丁寧な確認ができる聞く力、伝え合う力の育成。</p> <p>○<u>支援教育の充実</u> 個に応じた丁寧な指導・支援。</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○校内研究・公開授業実施 「ノート見学ツアー」(2回)実施。</p> <p>○音読発表会、音楽朝会を開催。ホームリーディング2回実施。委員会児童の読書啓発活動、ボランティアのおはなし会、図書室開放を実施。</p> <p>○全学年週1時間外国語活動実施。豪州公立小とのTV会議実施。</p> <p>○学期毎に、職員全員での支援交流会を開催。支援の手立て、自立の道筋を共有。SSW、SC、保健センター他外部機関と連携。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○研究授業では、村教委、外部識者の指導助言を受け、授業改善に努めた。</p> <p>○読み聞かせの機会に恵まれ、読書好きの児童は多い。図書委員会の貸し出しタイムは、ここ数年で見ても入室児童が増えている。</p> <p>○児童の課題や成長に合わせた効果的な指導支援について、外部機関・スタッフと連携し、理解を深めながら、職員全体で研修を進めた。</p>
A	次年度に向けて	<p>○指導方法改善→習熟度授業 ○思いを伝え合う力の育成→道徳中心に</p> <p>○読書活動→推進継続 ○外国語活動→新シラバス(課程)を検討。</p> <p>○支援教育→研修会(5月・7月)をもつ。藤井寺、富田林両支援学校の訪問指導を依頼。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		II 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<p>○食育の充実 食に関する指導の全体計画に基づいた、食育の実践。</p> <p>○心の教育の充実 「思いやり」「やさしさ」を育成の重点にした道徳教育の推進。道徳の時間で、価値項目・内容を漏れなく実施。</p> <p>○体力づくりの推進 アクションプランに基づいた行事の実践。</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○保健主事、保健給食担当と連携した栄養教諭による食育授業、給食時間帯の食指導。今年度は、担任による教科・領域の中での食育を実施。</p> <p>○心の教育については年間計画通り、全価値項目を網羅した35時間の道徳授業を実践。年間計画通り、人権教育を推進。</p> <p>○年間計画通り体育的行事を実施。今年度は、体育委企画「ミニ運動会」、児童会企画「季節もの鬼ごっこ」も実施。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○1年給食開始時や生活科おいもパーティー時の紙芝居、図工の構想段階でのお弁当カードの活用など、担任による食育も実施。</p> <p>○道徳研究授業も実施（1年）、3月には人権教育実践交流会も実施。</p> <p>○スポーツテストの結果分析に加え、児童質問紙調査の結果分析も実施。結果を公表（学校だより3月号・ホームページ）</p>
A	次年度に向けて	<p>○食育→今年度末の、実践記録を持ち寄った村全体での総括が反映された次年度の方針に沿って実践。</p> <p>○心の教育→新しい内容項目を反映させた年間計画で道徳授業を実施。研授業も道徳中心に実施。人権教育実践交流会の成果を年間計画に反映。</p> <p>○体力づくり→なわとび集会（全体の取組み）となわとび教室（6・5年が運営）のうち、なわとび教室に重点を置き、個人の向上の機会をより確保。休み時間の委員会遊び企画は、実施時期と内容をより精査して継続。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進		
P	重点目標	<p>○<u>生命尊重の取組み・防災教育の推進</u> 大規模災害を想定した地域、行政等と連携した取組み、主体的に判断・行動する力を育む防災教育・安全教育の充実。</p> <p>○<u>いじめ・虐待防止</u> 基本方針に即し、気になる児童についての情報交換、アンケートの分析を生かした、いじめ・虐待の防止・対応。S C、S S W、家庭児童相談員との効果的な連携の推進。</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○5年生対象に、大雨・洪水・落雷・竜巻から身を守ろうというテーマで、理科と合科の大阪管区气象台による授業を実施。1月に土曜参観として、防災学習・防災訓練・児童引き渡し訓練を、午後からは、保護者・地域連携の研修を実施。</p> <p>○職員全体で、「気になる子どもの様子」を頻繁に情報交換。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○大阪管区气象台と安定的な連携ができています。授業づくりについては議論が必要。土曜参観・防災行事は、地域連携の点では大きく進歩。実施時期、実施方向は検討が必要。</p> <p>○子供が直面する課題については、複数で、また、チームで対応。外部組織の担当も入ってのケース会議も開催。</p>
A	次年度に向けて	<p>○避難訓練→学期に1回、児童に事前に知らせない避難訓練を実施。</p> <p>○防災行事→1月土曜参観の形ではなく分けて実施。[検討例] 11月の日曜参観の日に児童引き渡し訓練、職員・P T A・地域連携研修を入れ、別の日に防災学習・避難訓練を実施。</p> <p>○「心の体とくらしのアンケート」→会議でも必要な検討がしやすいよう職員会議に近い時期の実施とする。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		IV 開かれた学校づくり
P	重点目標	<p>○ふるさと（千早赤阪村）を誇りに思い、地域の人や地域の伝統に支えられた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部事業による、支援ボランティアに支えられたさまざまな体験活動の充実を通しての、児童の自主性・自立心の育成。 ・家庭や地域と連帯しての、安心して過ごせる楽しく元気な教室・学校づくり。
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○クラブ活動、金剛登山、花育、読み聞かせ等のボランティア支援 ○地域（支援）コーディネーターを位置づけての組織作り。 ○土曜参観、防災行事の共催、PTA活動（子ども110番の旗の家、危険箇所看板作り・設置）、PTA学級事業、給食試食会・学習会 子ども安全見守り隊のボランティア日常活動。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度から陶芸教室、今年度は家庭科授業支援、百人一首交流も実現。 ○学校支援地域本部→地域コーディネーターと定期会議を開催。初めて今年度末にも「総会」を開催。今年度のボランティア支援活動の成果と課題を共有、地域コーディネーターを核とした組織作りについて説明 ○防災行事は再検討。給食試食会・学習会は親学習の貴重な機会でもある。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア支援→ご協力いただける範囲で継続。金剛登山→例年通り、秋に全校で実施。他の校外学習行事を移動・精選。 ○学校支援地域本部→地域コーディネーターを核とした組織で活動推進。 ○防災行事→分割実施。子ども安全見守り隊の方へ→継続依頼。

4. 教育自己評価

【教職員による評価】

- ・各欄「自己評価／成果と課題」の通り

【外部アンケート等】保護者による学校診断アンケート結果より ※微増減は注記なし

I 学力向上と教育力の充実

- ・基礎的な学力が定着に身についている 肯定的評価 → 96%
- ・授業は工夫されていてよく分かる 肯定的評価 → 93%

II 豊かでたくましい人間性の育成

- ・豊かな心をもった子供を育てている 肯定的評価 → 87%

※10ポイント下降

- ・いろいろな体験学習に積極的に取り組んでいる 肯定的評価 → 94%

<その他自由意見>

- ・6年生による、村立中学校の文化発表会鑑賞を、次年度も希望。

III 安全安心な学校づくりの推進

- ・安全に日頃からよく気配りしている 肯定的評価 → 96%

<その他自由意見>

- ・防災行事（避難訓練）は、ガラスが飛散している、インターフォンが使えないなど、想定を変えて実施すると良い。
- ・防災行事は、感染症が流行しやすい1月、2月を避けて実施する方が良い。

IV 開かれた学校づくり

- ・学校は、保護者・地域の願いに応えている。 肯定的評価 → 93%
- ・学校や職員室は、気軽に訪問しやすい。 肯定的評価 → 85%
- ・学校全体の雰囲気は、明るく活発である。 肯定的評価 → 99%

5. 学校園関係者評価

＜学校評議員会（3月9日〔木〕開催）より＞

- 家庭教育が大変になってきている。親が夜遅くまで起きているために子供の就寝も遅くなりがちな家庭、朝ごはんを用意できていない家庭、登校する前に親が出勤して子供の登校時に不在になる家庭等々。家庭への支援を考えなければならないのでは。
- 他市の事業として聞いた話で、新1年生の家庭全戸を訪問して、保護者の話を聞いたり、相談にのったり、子どもの様子を聴き取りしたりする支援員を置いているところがある。こういうことを制度として作れば家庭支援になり、家庭への働きかけが可能。
- 宿題の量について。小さいうちに家庭でも勉強する習慣をしっかりとつけることが結局は、大人になって自立する力になるので大切。
- 本校は、家でやるべきだと思ふことも対応されて、頼れる学校になっている。先生方も大変だと思ふが、このような学校が地域に存在することは安心。
- ボランティア活動も根付いている学校だからこそ、学校支援地域本部としての組織的な活動が出来てきている。
- このように文字としてまとめられていると大変分かりやすい。しかし、このようなものを作らなければならないことは大変だと思ふ。

6. 第三者評価

＜大学教員による校内研修での指導助言より＞

◇授業づくりについて

「算数科」：算数は系統学問であるからこそ、既習内容を踏まえた上で、「この時間に何を教えるのか」ということがぶれないよう配慮を。児童が説明する場・活動を大切に。

「総合的な学習の時間」：パフォーマンス課題、目標と計画、つけたい力が明確なルーブリック、探究的な活動や発表会などの活動、自己成長記録の作成、評価セッションの順に構成された単元作りが重要。

「外国語活動」：4時間の単元なら4時間目はアウトプット・自己表現の時間を重視すべき。買い物活動は目的を明確にし、必要な会話表現を学習内容に入れる。新要領で小学校では600語を習得。中学校へつながるシラバスを。6年はリスニングテスト実施も。